



河端 芳恵 議員

団塊世代なので
2025年問題は切実です

問 誰一人取り残さない社会への施策は

町長 包括支援センターが中心になり支援

要支援者の早期発見、相談、支援は

問 町の高齢化率は40%に近く、中には既に50%を超えている地域もあり、高齢夫婦世帯、単身高齢者世帯が増え

支援を必要とする人の早期発見、相談、支援をどう進めていくか。
答 地域包括支援センターの保健師などが、地域での活動の場や老人クラブでの介護予防教室、民生委員などからの情報提供を基に自宅に訪問し、生活状況や心身状態などを確認して支援が必要な人の早期発見に努めている。

高齢者向け住宅の充実の考えは

問 住み慣れた地域で暮らし続けたいと望んでいる人が多い。

高齢者向け住宅を整備する考えは。
答 アンケート調査の結果をみると「住み慣れた家に住み続けたい」との意見が多かったので、住宅改修・福祉用具貸与などの各種サービスの充実を図ってきたい。

問 民間活用型の高齢者住宅の考えは。

答 サービス付き高齢者住宅の検討はしたが、入居費が高くなるなどアンケートでは入居希望がなかったため断念

した。
問 ケアハウス、静寿園増床の考えは。

答 2025年以降高齢者のピークが過ぎた後は、施設入所者が減る。今のケアハウスは自立の人しか入れないが、特例入居ができるような仕組みを考えている。



地域包括支援センター

10メモ 2025年問題

団塊世代が75歳以上の後期高齢者となり、医療や介護などの社会保障費の急増が問題となる。

問

人生100年時代への社会教育は

教育長

ニーズや課題を把握し進める

問 人生100年時代を迎え、生涯学習の果たす役割がますます大きくなっている。

高齢者の社会参加をどのように進めるか。
答 高齢者の自主的運営の「若がえり学級」、福祉部門と社会教育が連携した「シニア健康教室」や「健康部」、他にスポーツ教室や健康・体力づくりなどの学習機会を提供し、生きがいや健康・仲間づくりを支援している。

高齢者の知恵と技を生かす取り組みは

問 高齢者はさまざまな知恵を技を持っている。それを生かす生きがいづくりをどう進めるか。

答 こども園や訓子府高校との異世代交流、スクールサポーター事業、スポーツや文化芸術教室の講師など多方面にわたり貢献されている。今後も高齢者の経験や知識を次世代に伝承し活躍の場を広げる環境づくりに努めたい。



若がえり学級